

令和5年度 iJAMP「市議会最前線」掲載記事一覧

掲載月	市議会	タイトル	頁
令和5年			
4月	阪南市議会（大阪府）	議会のペーパーレス化と業務効率向上	P2
5月	総社市議会（岡山県）	市民への説明責任を果たす「議決結果説明会」	P3
6月	坂出市議会（香川県）	高校生とともに住みたいまちを考える	P4
7月	大分市議会（大分県）	大分市議会における若年層に関する取組	P5
8月	稚内市議会（北海道）	開かれた議会と機能向上を目指して	P6
9月	山形市議会（山形県）	地域の文化や伝統を次世代へ！「花笠議会」を開催	P7
10月	越前市議会（福井県）	ICTと市民の意見を活かし議会改革進行中！	P8
11月	川崎市議会（神奈川県）	新しい議場で市民に身近な開かれた議会を目指して	P9
12月	多治見市議会（岐阜県）	議員全員参加で総合計画を実りあるものに	P10
令和6年			
1月	香芝市議会（奈良県）	議会基本条例に基づく議会改革への取り組み	P11
2月	下関市議会（山口県）	顔の見える議会、投票率の向上を目指して	P12
3月	小松島市議会（徳島県）	出産した女性議員のために「授乳室」を設置	P13

【市議会最前線】議会のペーパーレス化と業務効率向上 = 阪南市（大阪府）

23/04/03 08:00 Ln001

阪南市議会では、議会活性化と議会改革推進のため、令和2年7月に『議会改革推進検討会』を設置し、議会のペーパーレス化、ICT化や議会基本条例制定等について議論してきました。

これまで行政内での通知・連絡ともに紙ベースというアナログ方式でしたが、コロナ禍ということもあり、議員から早急にデジタル化への取組の推進が要望され、まずは、議会のペーパーレス化、ICT化について、重点的に協議しました。できるだけ予算を使わない・コストを抑えるという観点で、事務局からの調査・報告を繰り返し、令和2年12月に機器等の導入を決定しました。

タブレット及びファイル共有会議システムを導入したことで、紙の場合、持ち運びが容易ではなかった資料等がタブレットへ保存されていることにより、手荷物の簡素化や資料の共有等が容易になり、議員活動の効率化につながりました。また、資料の印刷時間の短縮やペーパーレス化による紙・インク代の節約など、事務局業務のみならず理事者側の業務においても、負担の軽減や事務の効率化を図ることができました。

また、本庁舎等のWi-Fi環境の整備では、セキュリティの対策から一般の利用は供していないものの、将来的に起こる可能性が高いとされる南海トラフ大地震を想定し、非常時には、市民がパスワードを入力せず、容易にWi-Fiが利用できるよう、災害発生時に緊急モードへの切り替えを可能としております。このほか、コロナ禍で密を防ぐ観点から、オンライン会議の開催を可能とするための委員会条例の改正や環境整備を行い、いざという際に備えた円滑で効果的な議会運営に取り組んでおります。

さらに、地方分権と住民自治の時代にふさわしい議会の在り方を明らかにするとともに、更なる議会の活性化を図り、もって市民福祉の向上と市政の発展及び持続可能で環境にやさしいまちづくりに寄与することを目的に、『阪南市議会基本条例』の制定を目指しているところです。(了)



タブレットのデモンストレーションの様子

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】市民への説明責任を果たす「議決結果説明会」＝総社市議会（岡山県）

23/05/08 08:00 Ln001

総社市議会では、議会活動の市民への説明責任を果たすとともに、情報の共有化を図るため、令和3年11月定例会市議会から議決結果説明会を実施しています。

議決結果説明会は、議会閉会後に議決に至る審議の内容や経緯等を議長が説明し、議長や常任委員会の委員長が報道関係者の質問に答える形で行われます。

総社市議会は、市民を代表した行政の監視機関として、日頃から厳しい目で行政と向き合っています。上程された議案一つ一つを慎重に審議する中で、議案を否決することも少なくありません。最近では令和2年から3年連続で議案を否決しており、令和元年には修正議決も2件行っています。

議案を否決すれば、市民の方から「良い案なのになぜ否決したのか」というお言葉を多く頂戴します。

市議会の意思決定は、市民の生活に大きな影響を与えるものであることから、市民に対し、議会の意思決定の内容や背景をわかりやすく説明し、理解を深めてもらうことがとても重要です。そうした考えのもと、議決結果説明会を行っています。

先の令和4年11月定例会市議会では、議案（条例案）が1件否決となりましたが、議決結果説明会において、審議の経緯や条例案の問題点等を詳しく丁寧に説明し、また報道関係者からの質問に対しては、条例案の基本理念や目的を否定するものではないといった考えを整理し、共有を図りました。

市民に親しまれ、信頼される議会になるのは決して簡単なことではありませんが、「議決結果説明会」が一つ重要な役割を担っていると確信しています。

総社市議会はこれからも、より開かれた議会になるべく、様々な取組を実施し、市民に信頼される議会を目指していきます。(了)



※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】高校生とともに住みたいまちを考える＝坂出市議会（香川県）

23/06/01 08:00 Ln001

坂出市議会では、平成24年に坂出市議会基本条例を施行しており、当該条例に、市政の諸課題に柔軟に対処するため、市政全般について、議員と市民が自由に情報および意見を交換する場としての「議会報告会」を規定しています。この議会報告会の開催方法等は、毎年、広報広聴委員会で検討しており、各地区で個別に議会報告会を実施したり、大きな会場で実施した年もありました。

令和4年度の議会報告会の開催等について広報広聴委員会にて検討を進めていく中で、従来実施していた議会報告会では学生が参加することがなかったため、高校生などの考えを聞く場が欲しいといった委員の意見がありました。そして、高校生が坂出市に魅力を感じ「住み続けたい」と思うようなまちづくりが今後重要になると考え、新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で、高校生を対象に議会報告会を令和5年1月に3年ぶりに開催しました。

議会報告会は2部制で実施し、第1部で、議会で審議した予算についてクイズを交えながら説明するとともに令和4年度に実施した新規事業について説明を行いました。第2部では、「私はこんなまちに住みたい」という大テーマと「～遊ぶ・見る・食べる・くつろぐ・安全・やさしい・集まるところ～」という小テーマを設定し、班に分かれて意見交換を実施しました。その結果、高校生からは「部活動の帰りに飲食ができる施設が欲しい」や「飲食をしながら自習できる場所が欲しい」など学生特有の意見をはじめ、「夜、街灯が少なく帰宅時に怖い道がある」や「閉店している店舗が多い商店街の再整備が必要」など市の課題と言えるものを再確認することができました。

また、高校生が議会に興味や関心を持ってもらう機会とするため、議会報告会の会場を議場や委員会室にし、意見交換会を議員と高校生が自由に発言できるよう、ブレインストーミングで実施したことにより、参加した高校生などからは貴重な経験ができたなど大きな反響を得ることができました。

今後、いただいた意見を議員活動に反映させていくとともに、幅広い世代と意見交換を実施できるよう、議会報告会の開催方法等について引き続き広報広聴委員会にて検討していく予定です。（了）



※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】大分市議会における若年層に関する取組（大分県）

23/07/03 08:00 Ln001

大分市議会では、平成23年度から、若年層の政治参加意識を喚起するため、高校、大学（短期大学含む）、専門学校生徒・学生を対象に「若年層との意見交換」を行っています。議員がそれぞれの学校に出向き、基本的には特にテーマを設けずに自由な意見交換を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響で、計画どおり実施できなかった年もありましたが、令和5年3月31日現在で、延べ46校と行っています。



条例づくりの意見交換の様子

また、令和3年度からは、若年層の市議会に対する関心を高めるとともに、意見等を広く聴取し、議会活動等に反映させることにより、議会機能の充実及び強化を図るため「若年層に特化した議会モニター制度」を実施しています。大学生を対象に、定例会モニタリングとして、本会議及び委員会の傍聴をしていただき傍聴の前後に2回の意見交換を行うというものです。参加者からは、「議会や市政にもっと関心を持つべきだと感じた」、「学生が議員と話せる機会が増えれば政治に興味を持つきっかけになる」などの意見をいただいたところです。

このような中、令和4年12月に、若者の活躍推進に関する基本的事項を定めることにより、若者の成長及び社会参画を促進し、若者の持つ活力が循環するまちの実現を目指して「大分市若者応援条例」を制定しました。

これは、政策的条例案の策定や市長に対する政策提言を行うために設置された「大分市議会議員政策研究会」としての取組であり、具体的な調査研究を行う推進チームを中心に、当事者である若者や、若者の支援に関する活動を行う団体などとの意見交換、市民意見交換会、パブリックコメントを通じて広く意見を聴きながら1年6か月の調査研究を経て制定しました。



制定後は、社会全体として若者の活躍を応援する機運を醸成する契機となることを期待して、広報用のポスター・チラシのデザインを公募しました。特に若い方の積極的な応募を呼びかけ、選考の結果、市内の高校生のデザインを採用しました。作成したチラシは、中心市街地を通行する方や下校中の学生、また、市内の中学・高校・大学などに配布するとともに、SNSでの発信も行い、条例の制定を広く周知したところです。

本市議会としては、引続き様々な機会を通じて若者と交流し、意見の把握に努めるとともに、若者の活躍推進に関する施策が効果的に推進されるよう市政に対するチェック機能を働かせていきます。(了)

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

条例広報用ポスター・チラシ

【市議会最前線】開かれた議会と機能向上を目指して＝稚内市議会（北海道）

23/08/01 08:00 Ln001

北海道稚内市議会では、開かれた議会を目指し、平成25年に市議会の公式Facebookを開設、更に平成26年には動画投稿サイトによる会議の中継・録画配信を開始するなど、市民をはじめ多くの方々への情報発信に努めてきました。

一方、平成29年12月には各議員用のタブレット端末を導入することで、議案をはじめとするあらゆる資料を常に携帯できる仕組みを構築し、議員活動の質の向上とペーパーレスの推進を図ると共に、平成27年度から導入した事務局専用のスマートフォンも活用し、事務局や議員相互における情報伝達が格段に向上しております。こうした環境整備に合わせて、令和4年3月には感染症の蔓延や災害発生時に対応すべく、オンラインでの委員会出席を可能とするための条例・規則改正を行いました。



女性議連初打ち合わせの様子（稚内市）

平成29年度に議会改革行動指針が策定され、議会改革に関する様々な課題を協議していく中で、前期に設置されていた議会改革特別委員会においては、幅広く議会に対する声を集めていくための機能の充実を重要視されたところであり、既存の議会広報委員会に広聴機能を持たせることで合意し、令和3年に会議規則の改正を行い「議会広報広聴委員会」といたしました。

現在、この議会広報広聴委員会では、議会だよりにおいて「〇〇と市議会」と題し、定期的に市民との対談について掲載しており、対談する相手方（業界団体・学生など）の選考から、交渉に至るまで委員（議員）自らが調整を行っております。比較的少人数で近い距離で行われるこの市民との対談は、毎回盛り上がりを見せ、議員や議会をより身近に感じてもらう機会として定着しつつあります。

また最近の話題としては、改選後において、定数18名に対して女性議員が5名に増加したことに伴い「稚内市議会女性議員連盟」が立ち上げられ、6月定例会終了後に初打ち合わせ会が行われました。この女性議連では女性を取り巻く様々な問題に対し、会派や党派を超えて協力し合うことで、自らの資質向上はもちろん、女性ならではの視点により様々な政策の提案や実行につなげることを目的にしており、今後の活動に期待が寄せられております。

このように、稚内市議会では開かれた議会と機能向上を目指し、様々な取り組みに挑戦しているところですが、更なる充実を目指してこれからも努力していく所存です。(了)

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】地域の文化や伝統を次世代へ！「花笠議会」を開催＝山形市議会（山形県）

23/09/01 08:00 Ln001

山形市議会では、山形花笠まつりを盛り上げるため、議場を利用したPRイベントとして「花笠議会」を実施しています。

山形花笠まつりは、毎年8月5日から7日までの3日間、山形市中心部の目抜き通りを会場に、1万人を超える踊り手がパレードを行う、東北を代表する夏祭りのひとつであり、山形市議会でも祭りの初日に踊り手として参加しています。

今年で61回を数える山形花笠まつり。新型コロナウイルス感染症の影響により、パレードの中止や踊り手の人数を抑えての実施など、近年は制限がある中での開催となっておりますが、4年ぶりに通常開催することができました。

花笠議会は7月28日、7月臨時会の開会に先立って行われました。会場である議場は、大小約80個の花笠で華やかに飾り付けられ、花笠音頭が響き渡ります。普段は一般質問の補助資料や電子表決の結果などを表示する議場ディスプレイには、祭りを紹介するPR動画や、昨年の祭りに踊り手として参加した議員の写真が映し出され、いつもは厳かな議場がお祭り会場の雰囲気にも包まれました。

議員をはじめ、市長、副市長や本会議に出席する執行部の職員も、山形市のお宝広報大使「はながたベニちゃん」をあしらったお揃いの法被を身にまとい、イベントに華を添えました。

花笠議会の冒頭、イベントの企画・立案を担当した議員たちが、祭り当日も使用する大きな提灯をもって登場。さらに、議長や市長からも祭りの成功を誓う熱いメッセージが発せられ、会場は大いに盛り上がりました。

イベントの結びは、一本締めならぬ「花笠締め」。花笠音頭の中で歌われる囃子ことば「ヤッショ、マカショ、シャンシャンシャン」の掛け声とともにイベントを締めくくりました。

花笠議会終了後には、7月臨時会が開かれ、法被や議場の装飾はそのままに、議員はいつもの真剣な顔に戻り、議案の審議を行いました。

山形市議会ではこれからも、地域の文化や伝統を大切に守り、次世代へ引き継いでいくとともに、市民に開かれた議会を目指し、努力してまいります。(了)



「花笠議会」の様子



今年も踊り手として祭りに参加しました

【市議会最前線】ICTと市民の意見を活かし議会改革進行中！ = 越前市（福井県）

23/10/02 08:00 Ln001

越前市議会では、さらなる議会活動の活性化を図り、市民に開かれた議会を目指すため、平成22年に北陸初となる議会基本条例の制定をはじめ様々な取組を行ってきました。

その中で大きな取組としては、議会モニター制度の導入と、タブレットの導入があげられます。

平成28年度に導入した議会モニター制度については、市民参加を基本とする開かれた議会の実現のため「市民との意見交換会」の常設版として位置づけ、モニターからの意見により改善に取り組んでいます。

タブレット端末は平成29年8月に県内で初めての導入となり、文書システムを利用した議会資料は一部を除いてすべて電子化し、会議の開催通知や行事案内などもメールで送信することとしたため、迅速な情報共有が可能となりました。最初導入に対し、苦手意識から不安を覚えた議員もいましたが、予想に反し講習会の開催回数も少なくスムーズに導入できたと感じています。

また、理事者も同時期にタブレット端末を導入したため、両者の情報共有が容易になり説明資料も質の高いカラーで見やすく、印刷や資料の差し替えによる職員の業務量の削減と合わせ、人件費や需用費の削減と職員の働き方改革に繋がりました。

特にこのタブレット端末導入が効力を発揮したのは、新型コロナウイルスが猛威を振るった時で、コロナ対策本部の情報共有や、議員間の意見集約、定例会における時間短縮のための資料格納の他、オンライン会議の開催にまで至りました。

令和2年1月の新庁舎の供用開始により議場や委員会室が一新され、オンライン会議を開催するための環境が整っていたことも、オンライン会議導入に向けた議論が進んだ大きな要因でした。災害時や感染症だけでなく、育児や介護なども含めて議員が会議の場に参集できない場合でも議論が継続できる環境づくりを行いました。

結果、オンライン会議開催のための条例等の改正を令和3年6月に行い、同年9月には常任委員会をオンラインにて開催するに至り、その後も議会運営委員会や議員の協議等の場においても開催しています。

今回の件で、タブレット端末をはじめとするICTを活用した取組は、今後ますます重要になると改めて実感しました。議会運営だけでなく、市民との意見交換をweb会議で実施することや、災害時の利活用について今後も引き続き調査研究を行っていきたいと考えています。(了)



※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】新しい議場で市民に身近な開かれた議会を目指して＝川崎市（神奈川県）

23/11/01 08:00 Ln001

川崎市では、令和5年6月に市役所新庁舎が完成し、10月から順次、移転を開始しました。「防災・危機管理」、「施設機能・経済性」、「環境配慮」、「文化・おもてなし」、「まちづくり」をコンセプトとして設計された新庁舎は、地下2階、地上25階の高層棟と、旧本庁舎の一部を復元した低層の復元棟から構成されており、高層棟の22階から24階が議会フロアとなっています。

このたびの新庁舎及び新議場の完成を契機として、市議会としても新たな取組を始めました。

議場で行われる会議の中継は、これまでインターネット中継と、各区役所のロビーにあるモニターでの中継を行っておりましたが、新たに、新庁舎高層棟1階情報発信スペースの75インチモニターや庁内サイネージにおいて中継映像の配信を行います。

また、令和4年5月の障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の公布・施行も踏まえ、情報アクセシビリティのさらなる向上のため、本会議について、インターネット中継、区役所モニター中継、情報発信スペースのモニター中継に政令指定都市初の試みとしてライブ字幕を付与します。ライブ字幕付きの議会中継を実施することにより、音声を流すことなく本会議の内容を表示することができるようになり、また議場に来ることができない聴覚障害者や聴力の低下した高齢者等の言葉が聞き取りにくい方でもインターネット配信映像を見ることで審議内容をスピーディーに知ることができるようになるなど議会中継の充実に取り組んでいます。

併せて、広報媒体として、「IT'S SHIGIKAI TIME！ IT'S KAWASAKI TIME！ さあ、市議会に行こう！」をテーマに市議会議員のほか、元劇団四季のアクターの鈴木淳さんをはじめ、本市にゆかりのある多様性あふれる様々なキャストの皆さんに御出演いただき、新しい議会の施設を紹介するとともに川崎市議会の理念やビジョンをビジュアル的に表現した市議会コンセプトムービーを制作しました。ムービーは新庁舎の情報発信スペースだけでなく、公共空間のデジタルサイネージ等にも公開を予定しており、「さあ、市議会に行こう！」と幅広く市民に訴求していきます。

これからも川崎市議会は、新しい議場で市民に身近な開かれた議会を目指し、取組を進めていきます。(了)



議場

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】議員全員参加で総合計画を実りあるものに＝多治見市議会（岐阜県）

23/12/01 08:00 Ln001

多治見市市政基本条例では、「総合計画は、市民の参加を経て案が作成され、基本構想と基本計画について議会の議決を経て、策定されます。」として、総合計画への議会の強い影響力を保証しています。

平成27年度には、計画の策定段階から議会が積極的に関わっていくスキームが評価され、第11回マニフェスト大賞の優秀成果賞を受賞しました。多治見市議会では、総合計画への議会参画のスキームが、改良を加えながら綿々と引き継がれています。

総合計画策定の議論は、執行部が作成する討議課題集を議員全員で共有することから始まります。

令和5年度は第8次総合計画の策定年度であり、市議会議員選挙後、5月臨時会の新体制で、21人の議員全員参加の総合計画策定特別委員会が設置されました。最初に行うのは、議員一人一提案です。新人議員も含めて全ての議員が、自身の公約や取り組みたい政策を実現するための提案を行い、今年度は延べ167件の提案がありました。これを執行部に提出し、議員一人一人の提案を議論の俎上に載せた上で、基本構想案、基本計画案の議論を行います。

特別委員会では、最初に、基本構想案について、委員全員で議論を行います。基本構想を達成するための手段（事業）である基本計画案は、3つの常任委員会の枠組みを準用した分科会形式で、1事業ずつ詳細に議論を行います。各分科会では、基本計画の修正要望や追加提案等を分科会の総意として全体会に上げ、全体会での議員間討議を経て、議会全体の総意としてまとめ、執行部に提出します。今年度は、2件の修正要望（①部活動の地域移行化、②市民病院の医療体制の充実）と、1件の意見（子育て支援事業の財源、実施時期について）をまとめ、執行部に提出しました。2件の修正要望については執行部で修正の上、12月定例会に総合計画が議案として提出される予定です。

策定後の総合計画の進捗状況の検証についても、議会が強く関わっています。全員参加（議長、現前監査委員を除く）の決算特別委員会で、毎年の決算審査に含めて基本計画事業の検証を行い、新年度予算への要望を議会の総意として毎年執行部に提出しています。また、総合計画策定の前年度には、全員協議会で基本構想全体の総括を行っています。

多治見市議会では、今後も議会参画による総合計画の策定、検証について、改良を加えながら、執行部とともに実りある総合計画の実現を目指していきます。（了）



第8次総合計画
策定特別委員会
の様子

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】 議会基本条例に基づく議会改革への取り組み = 香芝市 (奈良県)

24/01/04 08:00 Ln001

香芝市議会では、議会改革推進のため、令和3年6月に『香芝市議会基本条例』を施行し、「議会の機能の強化」「正当な理由なき専決処分承認の禁止」「調査機関や検討会の設置」「質問及び質疑の一問一答方式」等について明文化するとともに、議員の「文書質問」や、「議会改革推進会議の設置」については施策を進めてきました。

本市議会は、議会改革推進に積極的に取り組むという責務を果たすため、市長その他の執行機関への監視機能の強化や政策立案機能の充実等の議論を行い、議会運営の基本的事項を明確にする目的で、この条例を制定いたしました。この条例制定を念頭に地方自治法第96条第2項に基づき、議会の議決すべき事件の拡大等を行っております。具体的には、市が策定する5年以上の計画の策定、変更又は廃止について議会の議決が必要になりました。

また、議員は、香芝市議会基本条例の規定に基づき、閉会中に市長等に対し、文書による質問を行い、回答を求めることができます。この制度により議会の閉会中に発生した緊急の事態に係る質問をすることができ、回数や時間的制約のある代表質問、一般質問を補う効果もあります。また、議会での議論に資するため一定の事実関係を明確にすることで、質問を議会の中で生かし、踏み込んだ質疑や、質の高い市民福祉の向上につながる施策の提案に活用する事も可能です。

これまでの文書質問の実績としましては、令和3年度5件、令和4年度10件の質問がされており、内容につきましても、「保育所の保育環境」「産後ケア事業」「防災」「水道料金」「生活保護」などと、多岐にわたり、具体的なものが多くあります。回答については全議員に通知するとともに、市のホームページ (<https://www.city.kashiba.lg.jp/site/shigikai/13772.html>) で公表されており、市民の方に質疑の内容等が分かるように取り組んでいます。

さらに、議会改革について今後も継続的に取り組んでいくため、条例により議会改革推進会議を置き、諮問に応じて議論を行う場も整備しました。

香芝市議会はこれからも条例を中心に議会改革を進め、より市民に信頼される議会を目指して参ります。

令和5年度	
令和5年11月13日	川田裕議員 [PDFファイル/1.16MB]
令和5年10月31日	中井政友議員 [PDFファイル/3.78MB]
令和5年10月30日	川田裕議員 [PDFファイル/6.39MB]
令和5年11月6日	川田裕議員 [PDFファイル/2.26MB]
令和5年10月11日-2	川田裕議員 [PDFファイル/694KB]
令和5年10月11日	川田裕議員 [PDFファイル/4.76MB]
令和5年10月5日	川田裕議員 [PDFファイル/2.64MB]
令和5年10月2日	川田裕議員 [PDFファイル/646KB]
令和5年8月24日	川田裕議員 [PDFファイル/4.78MB]
令和5年8月14日	中井政友議員 [PDFファイル/3.73MB]
令和5年7月25日	川田裕議員 [PDFファイル/3.07MB]
令和5年7月20日	青木恒子議員 [PDFファイル/3.96MB]
令和5年7月18日	中井政友議員 [PDFファイル/6.34MB]

文書質問の回答は市HPで公表

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】顔の見える議会、投票率の向上を目指して＝下関市（山口県）

24/02/01 08:00 Ln001

下関市議会では、令和5年12月定例会において、議員定数を34人から2人減とする条例の一部改正案を可決したところですが、この議員定数を議論するために令和3年に設置された「下関市議会議員定数等調査特別委員会」で実施した市民アンケートにおいて、「選挙の時以外議員活動が見えない」、「各人の活動実績を知らせて欲しい」、「分かりやすく情報発信をして欲しい」等の厳しい意見が多数寄せられました。

これら市民の意見を受け、現議長の発案により、令和5年6月定例会から、最終本会議終了後に、議長・副議長、各常任委員会、議会運営委員会、特別委員会の各委員長出席の下、本会議及び各委員会で行われた主な審議内容等について報告する記者会見を行っております。

記者会見は、これまで3回行っておりますが、毎回記者から多数質問がなされており、活発な会見となっております。各紙でも記事として取り上げていただいております、この取り組みをはじめ、議会だよりを一般質問の内容中心から、議会での議論を中心に編集するなど、顔の見える議会に向けて取り組んでおります。

また、本市議会では、平成24年の議会基本条例制定以降、毎年（コロナ禍による令和2年、令和3年は除く）「市民と議会のつどい」と銘打った、市民を対象とした議会活動の報告会や、各種団体等との意見交換会を行っておりますが、選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを受け、主権者教育の一環として市立高校の生徒を対象に開催したり、下関市選挙啓発サポーター（投票率の向上を図るため、選挙の啓発活動等に取り組む18歳から25歳までの市内に在住または在学、在勤している方 ※山口県内において初の取り組み）を含む市内の大学に通う学生を対象に開催したりと、若年層における投票率の向上などをテーマとしたつどいも開催しております。

10代、20代の若年層の投票率の低さが全国的な課題となっているところですが、引き続き若年層とのつどいを開催するとともに、令和6年度は、平成27年を最後に開催されていなかった「子ども市議会」の開催を見込んでいることから、今後は、議会が主導する主権者教育についても注力し、市民にとって顔の見える議会と投票率の向上を目指してまいります。（了）



市民と議会のつどい

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

【市議会最前線】 出産した女性議員のために「授乳室」を設置 =小松島市議会（徳島県）

24/03/01 08:00 Ln001

令和5年4月の小松島市議会議員選挙で初当選した女性議員が、当選4日後に出産をしました。

小松島市議会議員では、乳幼児を子育て中である女性議員がこれまでいなかったため、産休明けすぐに活動したいという意向がある女性議員のために、任期開始の初会合となる議員全員協議会で、授乳室や赤ちゃんのおむつ交換ができる部屋について話し合いました。

その後も、議員間、委員会及び議員全員協議会で、産休明けまでの短期間に授乳室を設置できるよう話し合いを続け、議員のひとりぐあいを貸していただけよう病院施設と交渉を行い、別の議員は高齢者施設で不要となった備品の情報を得て、市議会に譲っていただけるよう調整を行い、授乳中の目隠しとなるパーティションを確保しました。

空き部屋もないため、議会図書室の配置換えを行い、一角にベビーベッドとパーティションを置き、授乳室としました。リラックスして赤ちゃんが寝られるよう議会事務局職員が手作りの飾りつけを行い、議会にかかわる全員で予算をかけることなく1か月で授乳室を完成させました。

さらに、「会議中はみだりにその席を離れてはならない」と市議会会議規則で定めていることについて、議員全員協議会で協議し、授乳室で赤ちゃんの付き添いをしている夫とSNSを通じて連絡を取り、授乳のために席を外すことも可としました。

ひとりの女性議員の議会活動への思いを叶えるため、全議員で試行錯誤しながら早期に達成できたことは、小松島市議会にとって大変貴重な機会でありました。議会内部だけでなく、この件と同様に個々を尊重し活躍できる環境を作り、議員全員の力で市を良くするため取り組んでいきたいと考えています。(了)



※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.